

平成25年2月の解説（週間天気予報）

【2月の天候状況】

上旬は、旬の前半は低気圧と高気圧が交互に通過したため、北日本を除き寒気の影響を受けることが少なく、気温が高い日が多くなりました。旬の後半は東・西日本でも寒気の影響を受けた日が多くなりました。6日は、本州の南岸を低気圧が通過した影響で東日本の太平洋側でも雪となり、低気圧の通過後は冬型の気圧配置となりました。

中旬は、日本付近を低気圧が数日の周期で通過し、低気圧が通過した後は冬型の気圧配置となって、北日本から西日本にかけては寒気の影響を受けました。沖縄・奄美では、天気は数日の周期で変わりました。

下旬は、旬の中頃まで北日本から西日本にかけて冬型の気圧配置が続き、日本海側を中心に雪や雨の日が多く、太平洋側では晴れの日が続きました。また、上空の強い寒気の影響により、北日本の日本海側から北陸地方にかけて大雪となり、これまでの降雪により積雪の深さが大きくなっていた所では記録的な積雪となりました。旬の終わりは、日本付近を高気圧と低気圧が交互に通過し、27日は東・西日本の太平洋側を中心に雨や雪となりました。沖縄・奄美では、寒気の影響は小さく、旬のはじめと終わりに低気圧や前線の影響により雨となりましたが、旬の中頃は晴れの日が多くなりました。

月平均気温は、沖縄・奄美でかなり高くなりました。一方、北・東日本では低くなりました。西日本では平年並でした。月降水量は、北日本の日本海側、西日本で多くなりました。一方、沖縄・奄美では少なくなりました。北日本の太平洋側、東日本では平年並でした。月間日照時間は、北日本の日本海側で少なくなりました。一方、沖縄・奄美では多くなりました。北・東日本の太平洋側、東日本の日本海側、西日本では平年並でした。降雪の深さ月合計は、北・東日本で平年並でした。西日本では少なくなりました。

【2月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は、全国平均では78%と例年値^(注)より7ポイント高くなりました。地方毎の適中率は、四国地方と九州北部地方及び九州南部地方では例年値より13～15ポイント高く、東海地方と近畿地方で10ポイント、また、関東甲信地方と沖縄地方では7ポイント高くなりました。

最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、例年値より小さい地方が多く、北日本では例年値より0.6℃小さくなり、全国平均では例年値より0.2℃小さい2.2℃になりました。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差は、全国的に例年値より小さく、九州北部地方と九州南部地方では例年値より0.7～0.9℃小さく、北日本と近畿地方及び中国地方では0.5～0.6℃小さくなりました。全国平均では例年値より0.5℃小さい1.7℃になりました。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4月の週間天気予報の利用にあたって】

4月は暖かい日が多くなりますが、低気圧の通過後、大陸から移動してきた高気圧に覆われて良く晴れた日の朝には最低気温が低くなり霜がおりることもあります。週間天気予報で晴れの予報が出ている日は、1日の中での寒暖の差が大きくなりやすいので、健康管理にも注意して下さい。